

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 6. 10

いきいき なかよく ほこりを持って 第5号

「不審者対応避難訓練」を実施しました

6月9日(水)、不審者対応避難訓練を実施し、その後、「防犯パトロール隊」と「こども110番連絡所」の方々との合同研修会の予定でした。しかし、飯豊町内での感染や近隣市町での感染拡大から日が浅い状況であるため、規模を縮小し、児童と職員、講師で不審者対応避難訓練を行い、「防犯パトロール隊」と「こども110番連絡所」の皆様には紙面を(この学校だよりを含めて)ご覧いただきたいと考えました。日頃のご指導とご配慮に感謝申し上げつつ、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、不審者対応避難訓練では、置賜教育事務所の青少年指導担当の山口先生、エリアスクールソーシャルワーカーの長谷部先生、長井警察署の少年補導担当官の佐藤先生、飯豊駐在所の平係長さんがご来校、実技を交えたご指導をいただきました。

はじめに、少年補導担当官の佐藤先生、青少年指導担当の山口先生のご指導で、「きょうはいかのおすし」の一つ一つを確認し、実際の逃げ方、大声の出し方、知らせ方などを練習しました。

- ・きよりをとる
- ・うしろにもちゅうい
- ・はやくかえる
- ・ついていかない
- ・さそいにのらない
- ・おおごえをだす
- ・すぐにげる
- ・しらせる

不審者との距離は、2mはとりたいとのこと。実際の訓練では、2mの距離の確保、とっさに大声を出すことの難しさなどを体験することができました。

さらに、加えて大切なこととして、「一人にならない」「出かける前にことわる」ことの大切さもご指導いただきました。

最後に、いじめ防止についてソーシャルワーカーの長谷部先生からご指導いただきました。

いじめによる「からかい」「チクチクことば」などを通して、いじめを受けた子の心にはたくさんの矢が刺さり、10年経っても20経っても心の傷は消えないとのこと。

これからも、一人一人の安心・安全を確保し、児童が生き生きと学校生活を送ることができるよう努めてまいります。学校、家庭、地域のいっそうの連携を、今後ともよろしくお願いいたします。



「不審者」とはどんな人？

2mの距離をとる、すぐ逃げる

こども110番に逃げる、知らせる

<お知らせ>

- 7日(月)、学校後援会理事会が開催され、議事は全て可決していただきました。誠にありがとうございました。今年も子ども達のため、添川小学校のため、有効に活用させていただきたいと考えております。学校後援会役員、理事、会員の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
- 16日(水)に予定しておりました芸術鑑賞教室(演劇)は、今年度は中止(来年度に延期)になりました。費用(500円)については、これからの学校集金で調整させていただきます。
- 7日付けで、「飯豊町における学校関係者が新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者になった場合の学校の対応の改訂について(お知らせ)」が飯豊町教育委員会から発出されました。
一部改訂のポイントは次の点です(現在、県の注意・警戒レベル3)。
「学校関係者(児童生徒と教職員)」が、①感染が判明した場合、②感染者の濃厚接触者と特定された場合、③PCR検査の受検対象者の判断された場合、④同居している家族等が、感染者の濃厚接触者にあたりと特定された場合またはPCR検査の受検対象者の判断された場合
⇒ ①~④いずれも学校に連絡をお願いします。また、④では、本人を自宅待機するとともに(同居している家族が陰性と判定されるまで)、学校では感染防止対策を徹底します。

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために(その15)

お父さんからほめられると、子どもは、 学校や社会へ出ていく自信を持つようになる

お父さんは、子どもにとって、初めて出会う社会です。

お母さんとの一対一の関係から出て、初めて出会う他人がたいいお父さんだからです。そのお父さん体験が、どういうものかによって、子どもが社会をどう見るかが、強く影響されます。お父さんが自分を受け入れ、認めてくれたら、社会も自分を受け入れ、認めてくれると思いますし、お父さんから否定されたら、また社会からも拒否されると、子どもは思います。

実際、対人恐怖といって、人前に出ること、強く緊張感を持つ人たちがいます。もともと敏感だという生まれつきの部分に関係している場合もありますが、中には、お父さんが、子どもに恐怖心を与えるくらい、厳しすぎる人であった、とか、逆に、お父さんとの関係が希薄で、お父さんは、自分のことをどう思っているかわからない、という子どももあります。

お父さんから、ほめられ、認めてもらおうと、子どもは自信を持ち、そんな自分はきっと友達からも認めてもらえる、学校でも認めってもらえる、そして、社会でも認めってもらえる、と自信を持つことができます。

家から一步、外に出たとき、子どもはまだまだ不安だらけです。そういうときに、一言、「大丈夫、おまえならできる」と後押ししてやってほしいのです。

また、外で傷ついて、家に帰ってきたとき、「よくがんばった。今度はきつとうまくいくよ」と励ましの言葉をかけてほしいのです。

(『忙しいパパのための子育てハッピーアドバイス』明橋大二著、1万年堂出版)

ワーカーホリックみたいに仕事ばかりしていた以前の私(校長)に(今も?)、家人が「読みなさい!」と持ってきてくれた本です。読んでみると(少々頭痛がしますが)、なかなかいい本です。なお、明橋氏はこの本の中で、こんなことも書いています。

お父さんがジョークを言うと、家の中に、ゆとりができる。ちょっとしたジョークを言えるお父さんは、家の雰囲気をもたせます。たいい、「さむーっ」とか、「ひでえ、オヤジギャグ」とか、言われるのがおちなのですが、ただ「オヤジギャグ」という言葉があって、「オバンギャグ」という言葉がない、ということは、やはり、一生懸命、ギャグを言おうとするのは、もっぱら男性だ、ということなのではないでしょうか。この本を読んだ私は、家の中で自信満々、オヤジギャグを連発しております。(迷惑かなあ……)